

## ◎小学生の部

### その他の良い作品

#### 植物の観察

須影小学校 五年

泉 美結

私の家の庭にはたく山の植物が生きている  
今年もとても暑い  
朝起きて外を見ると 朝顔と八重松葉ぼた  
んの花がきれいに咲いている  
でも日が高くなるとだんだんしおれてくる  
その側でぐんぐんと元気に育っている植物  
がある  
いわゆる雑草だ  
植えたわけでもない  
勝手に生えてくる  
この暑さの中水をあげなくても育っている  
緑をかがやかせながら背を伸ばす

風が吹いたらサラサラとゆれる  
雨がたたきつけるように降ってもふんばっ  
ている  
とても強い  
地面をはう様に生える植物  
背をぐんぐん伸ばす植物  
打ち上げ花火の様に葉を広げている植物  
形や色背の高さやさわった感じも全くちが  
う  
でもみんないっしょに生きる場所を見つけ  
て生きている  
人間の世界みたいに植物の世界があるのか  
な  
自分の命をせいっぱい自分らしく強く生  
きている植物  
名前も知らないけれど  
そんな強い植物を今日もながめている

どしゃぶり

三田ヶ谷小学校

三年

木村

風雅

まっさおだった空が  
黒い雲におおわれた  
あやしい雲といやな風がふいてきて  
サラサラサラ ヒューヒュー  
ヒュルルル ビュービュー  
あたり一面黄緑色のイネがゆれる音  
ゴロゴロゴロゴロ  
ぼつぼつぼつ  
いそいで家の中に入った  
とつぜん大つぶの雨がふってきた  
ボツボツボツボツ  
ズザアアアア  
ザザアアアア  
バチバチバチバチ  
雲と雨のたたかいだ  
まどのそばに立っているとこわくなった  
「うるさい。」  
とさけんだら  
もつともつとふってきた

ゴオオオオオ  
ザバババババ  
たきのうにふってきた  
空から地面からはげしい音がする  
さつきまでのお外はまるでべつ世界だ  
いっしゅんでプールにかわったおにわで  
ぼくも大あばれしてみた  
バツシャーン  
バシヤバシヤバシヤ  
楽しいな  
ひまわり あさがお イネたちも  
みんなみんな びっしよびしよ  
ずぶぬれになっていい気持ち  
ちよつぱりこわいけれど  
わくわくする  
いつもとちがう雨  
またまつてるね

# 風をきって走る

村君小学校 三年

佐久間 翔子

風をきって走る  
わたしはサイクリングがすき  
風をきって走るときもちがいい  
とね川サイクリングロード  
春にはうぐいすの鳴き声がきこえ  
黄色いなの花が広がる  
とね川の水がゆつくりながれる  
遠くに日光や赤ぎの山やまがきれいに見えて  
お姉ちゃんお兄ちゃんにはさまれて  
わたしはおもいきりペダルをこぐ

風をきって走る  
わたしはサイクリングが大すきだ  
風をきって走るのほとても楽しい  
いねかりをまつ田んぼが広がる  
風にゆれていなほがゆれる  
友だちの家のそばを通って公民館へ  
階段のある小高い所は古墳だという  
ばあばといっしょの時

わたしは少しゆつくりペダルをこぐ  
道をまがる時は  
うでで合図をしてあげる

風をきって走る  
わたしはサイクリングが大すき  
これからも  
ふるさと村君を走っていこう

## ぼくと小犬

新郷第一小学校 四年

多田 伊織

小犬が家にやって来た。  
小さくてとてもかわいい。  
茶色いからきなこという名前にした。  
だき上げるとあつたかくてふわふわ。  
あくしゅをするとう肉きゅうぷにぷにいい気もち。

ぼくがちかづくとうれしそう。  
ぼくの回りをぐるぐるびよんびよん。  
ごはんももりもり食べる。

ぼくも負けてらんないな。

だけでもまだ赤ちゃんだからおせわがたいへん。  
ぼくが赤ちゃんだった時もお母さんもこんな

にたいへんだったのかな。

ぼくはきなことやりたいことがある。

いっしょにさん歩や外遊びをしたい。

外の世界はきなこの目にはどんなふうに見える

るんだらう。

きつと楽しくてよろこんでくれるだらう。

今からとても楽しみだ。

ぼくの家ぞくになってくれてありがとう。  
たいせつにするよ。  
これからいっしょにいようね。

## もどってきた熱い夏

羽生南小学校 六年

棚橋 勇太

長かった  
この日まで  
あのウイルスが世界中の人々を  
きょうふのうずにまきこんでから  
時も活気も呼吸さえ  
すべてがとまったような日々だった  
今年五月  
あのウイルスに対する規制がゆるまって  
ついに四年ぶりにもどってきた  
暑い夏が熱い夏に変わる一日  
令和五年七月八日  
「羽生てんのうさま夏祭り」  
毎年、夏のこの一日が  
とても楽しみだった  
待ってました！  
セイヤ！セイヤ！  
テケテンピーヒャラドンドン  
いきのいいかけ声や  
おはやしの音色が

気はくたつぷりに  
ぼくの目、耳にせまりくる  
みこしやだしのとぎよ  
羽生市指定文化財だそう  
そして  
このはく力にも負けないくらいの  
友達や家族との楽しい会話や笑い声  
この人々の笑顔こそ  
文化財といえるくらいかがやいていた  
思えばこの数年は  
表情もマスクにかくされている日々で  
大きな声で笑ったり  
たくさんの人々の集まりは  
なかなか許されない毎日だった  
本当にだれもが待ちに待った  
羽生市一がんの大イベントだった  
夏祭り当日は  
つゆの雨がまだ残る  
こちよいい天候ではなかった  
じめつとした空気と  
たくさんの雨  
でもそんなことはおかまいなし  
ぼくは  
汗だか雨だかよくわからない

たぐさんびしよぬれになったけど  
大好きな友達や家族と  
これでもかというくらい  
話したり笑ったり  
つめたく色あざやかなき氷が  
アツイ体をひやしてくれながら  
いつまでも楽しい時間を過ごした  
来年もこれからも  
この歴史あるお祭りが  
ずっとずっと続くよう  
わかいぼくたちが未来に受けついでいくと  
強く思う  
今から来年のこの熱い夏が楽しみだ

## おじいちゃんのかだわり

新郷第一小学校 六年

平塚 大斗

ぼくの家とおじいちゃんの家は近くにあるので何かあると呼ばれます。

「十五夜だから団子を作るぞ。」

「正月だからもちをつくぞ。」

「節分だから豆まきをするぞ。」

季節の行事には必ず呼ばれて一緒に作ります。スーパ―で買うこともできるので、ぼくを呼んで一緒に作ることから始めるので、それがすごく楽しいので大好きでした。そんなおじいちゃんも去年亡くなりました。まだまだずつと一緒に季節の行事を行えると思っていたのに、とつぜんの別れでした。そんなおじいちゃんのお盆。去年のお盆にささで馬を作りながらおじいちゃんに「大斗にも作り方を教えようか。」と言われたことを思い出しました。あの時に、「オレはやらないよお。」と笑って断ってしまいました。にい盆をむかえるので、色々と調べてみました。すると、

おじいちゃんには「しよれい馬」を作った。お盆には、「まこも」というものでゴザや牛や馬を作るそうです。しよれい馬とは、牛と馬が先祖様を乗せて送りむかえをするそうです。少しでも早く来て頂くために馬に乗り、ゆっくりと帰って頂くために牛に乗るそうです。その牛と馬をおじいちゃんに毎年手作りしていたことをぼくは初めて知り、改めておじいちゃんの手作りへのこだわりがすごいと思いました。おじいちゃんはおぼくを喜ばせるだけでなく、昔から伝わる伝統をぼくに教えてくれていたんだと思うと涙がとまらなくなりました。今年はお店で買ってしまったけれど、いつか作り方を覚えてぼくの手作りのしよれい馬をおじいちゃんを送りむかえたいです。

## あいろいろの町

新郷第二小学校 四年

李 品 誼

わたしの町には海がない。  
田んぼや畑のみどり色  
でも、本当は、ふかいふかい海の色の町  
わたしのふる里は、あいぞめの里  
絵の具のあいろいろとちよつとちがう。  
絵の具のあいろいろよりもうすいような、  
こいような、夜のようなふかい青色  
わたしにとつて、大好きなおばあちゃんが  
教えてくれた色  
暑い夏のおばあちゃんのハンカチの色  
何度も何度もそめて、青色からあいろいろに  
なるんだって  
たくさんの時間と、手間をかけて作る色  
昔は町中で見ることが出来た  
あいろいろ  
わたしは、その時を知らない  
わたしは、あいろいろが好き  
わたしの、世界でたった1つの、ふる里の  
色いつか、わたしの子どもに見せてあげた

いなくならないでほしい色  
わたしの町には海がない  
でも、わたしのふる里は  
ふかいふかい海の色の町  
わたしのあいろいろの町が好き



## 秩父鉄道

新郷第一小学校 五年

吉江 大和

ガタンゴトン  
ガタンゴトン  
おさないころから大好きな  
秩父鉄道

レトロな車体が  
家の近くを通過する時  
どの車両が来るのか  
毎回ワクワク

電車は多くて三両へんせい  
目の前を通り過ぎるのは一しゅん  
ぼくが大きく手をふって  
フオーンってあいさつしてくれ  
ラッキーな一日になりそう  
手をふるルーティンが続いてる

乗ると心地よいゆれと  
見なれた景色をながめながら

目的地までゆらゆら  
ゆつくり楽しむ

最寄り駅は新郷駅  
電車とホームの間のだん差  
小さいころはこわかったが  
今はへっちゃら  
そして  
大人になったら  
秩父鉄道の運転士になるのが  
ぼくのゆめだ

つめたいけれどあたたかい

井泉小学校 二年

よし田 ともか

「ちゆめたい。」  
わたしが言うのと、  
パパが、言った。  
「つめたいでしょ。」  
「そうだよ。ともちゃん。」  
おねえちやんが言った。  
「おもしろいね。」  
こんどは、ママが言った。  
わたしは、なんだかうれしくなった。  
おばあちやんちのえんがわに、  
四人ですわって、わらった。  
おねえちやんが  
わたしのおなかをくすぐった。  
わたしはもつと、ゲラゲラわらった。  
「おもしろいね。ともは。」  
パパがまた言った。  
「えへっ。」  
わたしはまたうれしくなった。  
アイスはわたしのお口の中で

つめたいあまい水になった  
「たべちゃった。」  
わたしが言った。  
パパが  
「パパが小さいときは、よくここではにゅう  
のけしきをながめながら、さきからながれて  
くるすずしい風を、あびて、ともちゃんみた  
いに、アイスをたべたなあ。」  
と言った。  
おくから、おばあちやんが、  
にこつとわらってかおをのぞかせた。  
「あっこばあちやん。」  
と、わたしがよんだ。  
「ともちゃんは、アイスすき。」  
つて、おばあちやんがきいてきた。  
「うん。」と、わたしは、うなずいた。  
「それに、はにゆうもすきだよ。」  
と、つけくわえた。  
おねえちやんがわらっていた。わたしもわらった。  
ちよつとしあわせ。